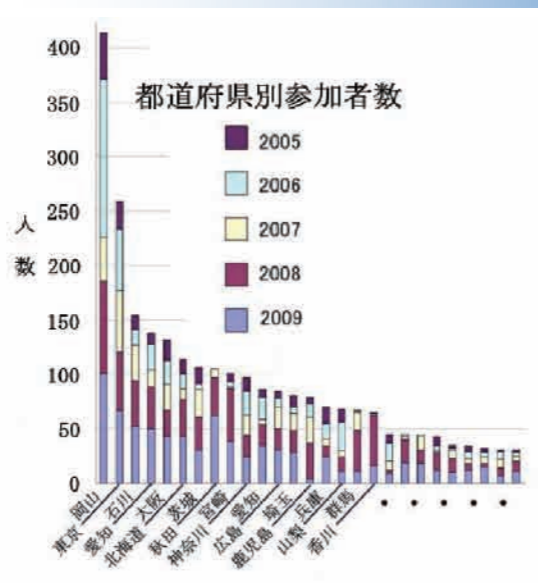
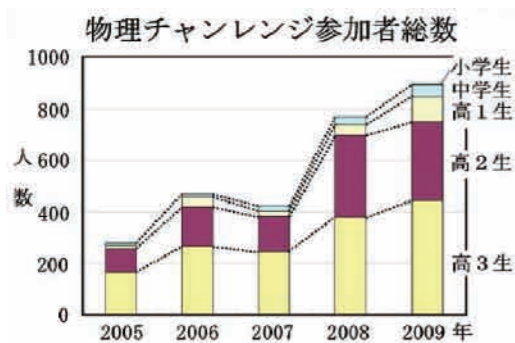


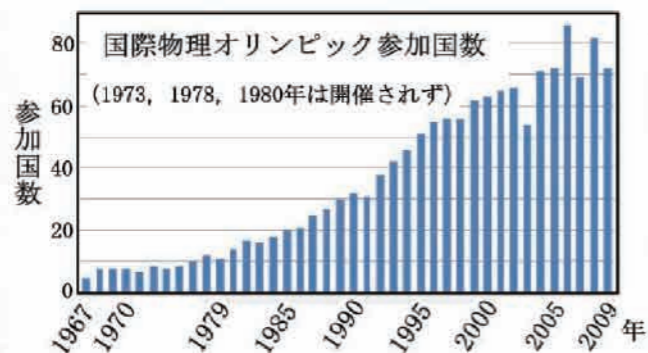
物理チャレンジ

全国物理コンテスト 物理チャレンジは、2005年の世界物理年を機に始められました。下図に示すように、参加者は年々増加しています。また、高校生にまじって中学生や小学生までチャレンジしています。



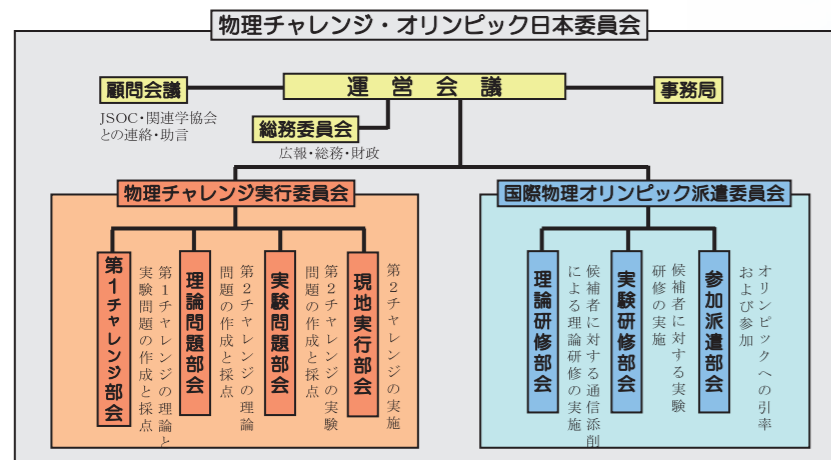
国際物理オリンピック

国際物理オリンピックは、主に高校生のための物理の国際的なコンテストで、1967年にポーランドで第1回大会が開催されました。各国内で選抜された最大5名の代表選手たちが引率役員とともに参加します。選手は理論と実験問題にそれぞれ5時間をかけて挑戦するほか、開催国主催の様々なイベントに参加し、国際的な交流を深めます。日本は、2006年の第37回大会から代表選手役員団を派遣しています。



国際物理オリンピックでの日本選手団の成績

第37回シンガポール大会(2006年)	銀 銅 銅 銅 入賞
第38回イラン大会(2007年)	金 金 銀 銀 銅
第39回ベトナム大会(2008年)	金 銀 銅 入賞 入賞
第40回メキシコ大会(2009年)	金 金 銀 銀 銅 銅



物理チャレンジ・オリンピック日本委員会の役員は、大学や高校の教員などから構成され、すべてボランティアです。関連学協会から推薦された役員と個人として参加している役員とからなっています。また、第1チャレンジや第2チャレンジの実施、オリンピック選手の指導などで、全国の多くの方々からご協力をいただいています。

物理チャレンジと国際物理オリンピック

物理チャレンジとは、大学等に入学する前の高校生や中学生の皆さんを対象として、物理の面白さと楽しさを体験してもらうことを目的として毎年開催される全国規模のコンテストです。また、翌年に開催される国際物理オリンピックの日本代表選手の選考も兼ねています。



主催: 物理チャレンジ・オリンピック日本委員会

共催: 日本物理学会 応用物理学会 日本物理教育学会 日本生物物理学会
電気学会 日本機械学会 岡山県 岡山光量子科学研究所
岡山大学 茨城県 茨城県教育委員会 筑波大学 東京工科大学
全国高等学会文化連盟自然科学専門部 科学技術振興機構
理化学研究所 日本科学技術振興財団

後援: 文部科学省 他

ホームページ
<http://www.phys-challenge.jp/>
Eメール
physchal@jsf.or.jp



7月 国際物理オリンピック 5名

世界トップレベルの高校生たちと競う
 ・難問の理論および実験コンテスト
 ・海外の物理好き高校生たちと交流



翌年3月 チャレンジ・ファイナル 約10名

国際物理オリンピック日本代表選手5名の最終選考
 第2チャレンジで選ばれた日本代表選手候補者に対して
 ・約半年間、通信添削で理論の特訓
 ・冬合宿・春合宿で実験の特訓



8月 第2チャレンジ 約70名

3泊4日の合宿形式による全国大会
 ・国際物理オリンピックにならったコンテスト
 理論コンテスト(試験時間5時間) 実験コンテスト(試験時間5時間)
 ・成績優秀者に金賞、銀賞、銅賞などを授与
 ・翌年の国際物理オリンピック日本代表選手候補者を約10名選出(高校2年生以下)
 ・研究所見学や最先端の研究者との懇談会などイベントも盛りだくさん



5~6月 第1チャレンジ

理論試験および実験レポートによる予選コンテスト
 ・理論問題コンテスト: 全国約70箇所の会場で一斉に実施
 ・実験課題レポート: 指定された課題について自分で実験をし、そのレポートを提出
 ・理論および実験の総合成績によって第2チャレンジ進出者約70名が選ばれる

4月 参加申し込み

参加資格: 満20歳未満で、大学等の高等教育機関に在学していないこと。